

平成 22 年度 学校 評価 実施 報告 書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>学ぶ力を着実に身につけさせ、学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力向上のための取組を充実させる。 授業改善のための教科会や研究授業、公開授業を実施する。 授業担当者間の日常的な情報交換によって授業改善を行う。 シラバスを提示し授業の目的を明確化することによって、生徒の学習意欲を高める。 実験・実習や演習を取り入れることで生徒の主体的な学習姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中等の講習・補習の充実。(35 講座以上の設定、200 名以上の参加) 授業研究教科会(年間 9 回)や公開授業を実施することで授業改善を行えたか。 生徒による授業評価を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中の講習は 30 講座を開講して 244 名の参加、補習は 7 講座を開講して 148 名の参加があり数値目標を達成している。 授業研究教科会は 9 回実施して、情報交換の場として機能している。特に、前期、後期に「生徒による授業評価」を実施、集計作業を行い、その資料に基づいた授業研究教科会を実施して、授業改善に役立てている。 科目によっては「実験・実習」を取り入れることが困難な教科もあるが、演習等も取り入れながら、生徒の主体的な学習姿勢を育てる姿勢は全教員に共通して見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と両立できるような講習、補習の時間設定を図る。 家庭での学習習慣を定着させるために、宿題(課題)を提出させる等の工夫を行う。 今後は、多様な生徒の入学が予想されるので、習熟度別(進路別)授業など、学習環境の整備を検討する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 同一教科でも、授業担当者によって指導方法が異なる場合があり、子どもは困惑しているようだ。 入学当初は、中学校とは異なる学習環境や学習内容にとまどいを覚えたようだが、親切的な指導によって落ち着いて学習に取り組めるようになった。 中学校や他校に比べると、課題(宿題)が少ない。 少人数でも講習・補習を実施して、熱心な指導をしてもらい感謝している。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜立野高校には、学ぶ意志を備えた生徒が多い。そうした期待に応えるよう、きめ細やかな指導をお願いしたい。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた雰囲気での学習に取り組める。(生徒アンケート) プリント学習の授業はわかりやすいときもあるが、自分のペースで学習できないこともあるので、ノートを使って落ち着いた学習をしたいときもある。(生徒アンケート) 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校は落ち着いた雰囲気での学習する生徒が多いが、理解力には差が生じており、その対策を講じなければならない。 授業研究教科会の実施により、教科指導や評価方法に対する教員の意識は高まった。 生徒による授業評価の結果からは、生徒の学習への関心の低さが感じられる。生徒の自己評価の厳しさがある一方、学校の指導体制にも工夫が必要である。(改善方策等) 多様な生徒の理解力に応じた学習環境の整備を推進する。 家庭学習の習慣化の充実を目指して、宿題、ノート提出などを課しながら、自ら学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 各学年に実力テストを導入して、学習への動機付けを図ることを推進している。今後は、意欲的・継続的な学習態度の育成を目指す。

<p>生徒一人ひとりの可能性を見据えたキャリア教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した「キャリア教育実践プログラム」の実践の推進を図る。 ・インターンシップを拡充し進路指導を充実する。 ・講演会やガイダンス、校外学習など様々な学びの場を設定し、生徒が自分の可能性を発見する機会を設ける。(各学年でガイダンス・講演会を2回以上実施する) ・学校外の教育力を活用し生徒に幅広い教養を身につけさせ、生徒の生きる力を育てる。 ・保護者や生徒との面談を充実させて、生徒一人ひとりの可能性の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育実践プログラム」の実践による生徒の進路に対する意識の状況。 ・進路実現率 100% が達成できたか。 ・校外学習やガイダンス、講演会等を実施して、生徒に学びの場を提供することができたか。(各学年で2回以上実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科、政治経済をはじめとして、キャリア教育の視点から授業展開を組み替える工夫が各教科で行われ、一定の成果を上げている。 ・進路希望調査の回答に、フリーター希望が0であることは、進路実現率100%の礎である。 ・各学年で、発達状況に応じた講演会、ガイダンスを実施して生徒の進路意識をためた。(各学年で2回以上実施した) ・国際理解のための英国大使館員による講演会、自己防衛のための薬物研究者による講演会、情報社会で生きるためのKDDI社員による講演会などを実施して、現代社会を生き抜く力を身につけさせるように努力した。 ・各学年に応じたテーマ設定、資料提供のもとで三者面談を行い、生徒一人ひとりの理解に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育とは、職業教育にとどまるものではない。学校教育全体がキャリア教育であるという意識を高め、教科、総合的な学習の時間、特別活動のすべての領域でキャリア教育を推進し、それぞれが連携ながら相乗効果を上げる体制作りを始める。(キャリア教育推進全体計画の推進) ・ガイダンスに臨む生徒の意識には大きな差があり、意欲の低い生徒がガイダンスそのものの効果を低めてしまうケースも見られる。今後は、事前学習の充実や参加形態の多様化などを図り、より多くの生徒が積極的に参加できるガイダンスを企画・運営する。 ・外部講師による講演会は、講師との事前打ち合わせ等に時間をかけ、こちらが望むところをしっかりと伝える。 ・三者面談前に、生徒との面談をするなどして、三者面談の効果を短時間で上げる方法を研究する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次からガイダンスを実施してくれることは心強い。 ・進路相談の機会をこまめに設けてほしい。(三者面談の機会が年一回あるだけで、相談の機会が少ない) ・保護者対象の進路説明会も、全体的な視野に立ったもの、学年に応じたもの、推薦入試に対応するものなど、丁寧に行われているので、適切な情報入手することができる。 ・学校で紹介されたインターンシップやボランティア活動に参加したことで、社会に目を向けることができるようになった。 ・指定校に関する情報は丁寧提供されるが、一般入試に関する情報が少ない。 ・受験に関する指導をもっと充実させてほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会・PTAとしても、キャリアガイダンスの講師として、自らの体験を伝えるなど協力したいので、協力を要請して欲しい。 ・中学校でもボランティア活動を通じて貴重なことを学ぶ生徒は多い。高校生には、ボランティア活動においてもリーダーシップを発揮するような役割を担って欲しい。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事をもっと活発にしたい。(生徒アンケート) 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポート、スタディサポートの両面からキャリア教育を推進する体制は整いつつあり、一定の成果をあげている。インターンシップ、ボランティア活動への参加希望者の多さや、その経験を生かした進路選択が行われている事例の多さが、その実証である。 ・ガイダンスや講演会へ参加する生徒の姿勢は、講師から高い評価を得るほど、意欲的なものがある。ただし、日常的な学習活動と進路学習の関係性を理解するものの、実践に移せない生徒もいる。ガイダンスや講演会が、その後の学習活動に継続的な好影響を与える方法を研究する必要がある。 ・講演会においては、講演内容が期待したものとは異なるケースがあった。今後は、しっかりと事前打ち合わせを行い、目的を明確にした講演会を企画・運営しなければならない。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの可能性を見据えるためには、教員の細やかな観察と指導が必要である。授業評価を読み込む努力を重ねるとともに、本校の特色である少人数学習の充実がキャリア教育推進の原動力となる。
-------------------------------------	---	---	--	--	--	--

<p>生徒の自主性を育み、社会性を身につけるための生徒指導を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのコミュニケーションを重視し、充実した学校生活のための支援を行う。 ・社会人としての意識を高めるための生徒指導を充実させる。特に遅刻指導や交通安全指導、制服指導に重点を置く。(月に遅刻5回を超える者を遅刻指導対象者とし指導する) ・学校行事や地域貢献・ボランティア活動などの心ふれあう教育により生徒の個性や自主性を伸ばす。(地域貢献活動は学校全体年1回と生徒会本部及び部活動は年1回以上実施する) ・自己肯定感を基盤として他者を尊重し多様性を認め合う力を育てる。 ・部活動の活性化等、生徒が活き活きと活動・活躍できる環境づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識が高まり生徒に社会人としての意識を高めることができた。 ・地域貢献、ボランティア活動の充実度。 ・各学年で遅刻指導を月5名以内にす。 ・学校行事における生徒の自主性の伸長や満足度の状況。 ・部活動加入率80%7目指す。(対前年5%アップ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」の実施や、交通安全や校内巡回指導時に、生徒に声かけを行い、コミュニケーションの充実を図った。 ・年間を通じた遅刻指導、年三回の交通安全指導、制服指導を行い、社会人としての意識を高める指導を行った。 ・毎月1日を「交通安全の日」と定め、各クラスでポスターを作製して、交通安全の意識を高めた。 ・学年ごとに地域貢献活動を行うとともに、部活動を単位として通学路の整備活動を行い、地域の中で学校活動が行われていることを実感させた。 ・生徒会が全校生徒に呼びかけて、エコキャップ運動を推進し、環境問題の理解を図った。 ・「クラスの日」を半日実施から全日実施としたことにより、自主的な行事運営の姿勢を育てた。 ・いじめ未然防止のアンケートの中で、命を尊重するメッセージを伝え、ともに生きる姿勢について、考えさせる指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導を行っているが、10月以降は一月の指導対象者が各学年で10人を越える。現在の指導方法に加え、保護者への連絡を行い、家庭の協力を求める方策が必要である。 ・「教科指導における生徒指導」というテーマで教科研究会を実施して、授業時においてどのような生徒指導が可能なかを検討した。今後は、あらゆる機会を通じて生徒指導を行う意識の共有化が必要である。 ・部活動加入率80%は達成できなかった。来年度も80%の加入率を目指し、「部活動の日」の活性化を図るなど指導に工夫が必要である。 ・制服の移行期(夏→冬・冬→夏)に、制服の乱れが見られるので、移行期間を捉えた制服指導を実施する。 ・港南台校舎への移転に伴い、交通安全指導は、通学路の指導に重点をおいて行う。また、一足制の導入に伴い、校舎内の上履き使用についても指導を行う。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が伸び伸びと活動する校風を感じる。その一方で、必要な指導はきちんと行われている。 ・立野祭、マラソン大会、合唱コンクールなど、子供たちは楽しそうに学校生活を送っている。 ・部活動が盛んである。 ・一部の生徒だが、頭髪の乱れが目立つような気がする。 ・体育祭があるとよい。 ・部活動にもう少し、顧問がかかわって欲しい。 ・公立高校の中では、問題を抱えている生徒への対応も良いほうだと思う。 ・学校内で、あめ、ガムを食べている生徒がいる。 ・近所の方から苦情が寄せられないよう、きちんとした服装・態度で登校してもらいたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式などの式典において、礼節をわきまえた行動をとることができる。 ・来校者に対して、笑顔で挨拶ができる生徒が多い。 ・登下校の自転車の乗車マナーなどは、改善の様子が見られる。ただし、二人乗りも見られ、安全面に不安がある。 ・生徒向け、保護者向けに教育相談を設定し、ポスターで利用を呼びかけるなど、教育相談体制は充実したものが感じられる。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別指導件数が年間で10件程度という状況は、ここ数年、変化がない。比較的、落ち着いた雰囲気の中で、教育活動が行われていると評価できる。ただし、今年度は、特別指導を複数回受ける事例がみられた。 ・遅刻指導は、遅刻指導の対象者ばかりではなく、遅刻を抑止する効果もあり、一定の成果を上げている。ただし、同じ生徒が遅刻指導を繰り返すことがあり、遅刻指導の効果を高めていく指導体制が必要である。 ・生徒指導の意味を広くとらえ、特別活動、教科学習の場面でも、生徒指導を心がけることが規律ある学校生活を送らせるために必要であるという職員間の共通認識を得たことは大きな成果である。 ・生徒会役員が、「クラスの日」を全日行事とするために、積極的な活動を行ったことは、自主的な行事運営という観点から高い評価をすることができる。 ・地域貢献活動は地元の町内会とも連携して行い、地域の中に学校があるという意識を生徒に伝えることができた(改善方策等) ・多様な生徒が入学することを踏まえ、グループと学年との連携など特別指導のあり方を見直す。 ・港南台校舎への移転に伴う、通学路の変化、一足制の導入に際する諸問題に迅速に対応していく。
--	---	--	--	--	--	--

<p>地域に開かれた、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校見学会、説明会の内容を充実させ、中学生や地域に向けて効果的な情報発信を行う。 家庭・生活教育の実践校として社会や家庭環境のあり方などを中心に研究を深める。 ホームページの更新によって学校の行事の様子や移転準備の様子をタイムリーに発信する。 エコ活動を推進するなど、生徒にわかりやすい身近な環境教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校見学会、説明会の内容の充実の状況。 学校の様子をタイムリーに発信できたか。(月ごとのホームページの更新12回) エコ活動等の環境教育の充実度。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会には40人以上の参加があり、数値目標を達成することができた。 月ごとにホームページを更新することで、学校の様子をタイムリーに伝えることができた。 家庭・生活教育の実践校として「結婚って何？」をテーマとするアンケートを実施し、その結果を基にして親と子の座談会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会やホームページについては、年々内容の充実がみられるが、さらに、内容を充実させる工夫が必要である。 家庭・生活教育の実践校としての活動は、参加した保護者、生徒には好評だった。この成果をどのように学校全体に広げてゆくかが今後の課題である。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> P T A活動を通じて、学校の様子を知ることができた。また、年3回発行の「広報たての」(P T A広報)によって、生徒の生き生きとした活動を知ることができた。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動は、町内会でも話題になるほど好評である。 中学と高校との部活動の交流を、安全面に配慮しながら推進してほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当グループによる学校説明会やホームページの活動は内容が向上している。今後は、担当者ばかりではなく、それぞれの分野の活動を発信できる体制づくりを充実させることが必要である。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 港南台校舎への移転にともない、学校周辺の住居者から、通学路についての要望や、地域行事への参加要請などが寄せられているので、地域との交流等は推進していきたい。
<p>生徒が安心して学べる学習環境の整備に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 耐震対策や学習環境の点検・整備を充実させ、安全で快適な学校生活ができるようにする。 生徒への防災・安全教育の充実を図る。 学校移転や新校舎建築の計画を円滑に進める。 事故・不祥事を防止する意識を徹底し、事故・不祥事0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の校舎の安全点検を行えたか。 校舎新築・移転計画を円滑に進められたか。 生徒が安心して学べる環境整備に努められたか。 防災・不祥事防止研修会の充実。(年間6回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震対策の厳しい条件下ではあるが、落ち着いて学習に取り組めるように教室配置、採光などに配慮した。 地震、火災に対する訓練を実施して安全教育を実施するとともに、全校集会や学年集会の場をとらえ、安全教育を行った。 会計、成績処理、生徒指導に関する事故防止研修を行った。 成績処理において、欠課数の確認作業を徹底して行い、記載ミスを大幅に減少させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 港南台校舎への移転作業は地震の発生、計画停電、悪天候などの状況の中、概ね順調に実施できた。年度当初から円滑な教育活動が行えるように、学年末・年度始めの休業期間を有効活用する。 事故・不祥事に至らないヒヤリハットはいくつか起こっている。確認作業が事故や不祥事を未然に防いだともいえるが、こうしたヒヤリハットをなくすことを徹底していかなければならない。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本牧間門の地を離れることは寂しい。 港南台校舎は、駅前の繁華街にもぎやかなので防犯上心配である。 校舎移転に伴う学習環境の変化に適応できるかと心配である。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年間使用しなかった校舎を使うので、水道や電気などのライフラインの確認作業をしっかりと行ってほしい。 間門校舎に比べると、開放的な作りの校舎なので、不審者の侵入などにも警戒してほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 港南台校舎への移転という目標に向かい、部活動などで港南台の施設を先行利用したり、校舎見学会を実施したりするなど、不安感を解消するために有効な対策を講じることができた。 P T Aの協力を得て、港南台校舎の教室のペンキ塗りを行い、学習環境の整備につとめることができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して学ぶことができる環境をさらに整備していく必要がある。 一足製の導入に伴い、校舎内の環境整備のためにとり得る方策(靴を拭くためのマットを設置するなど)を講じるとともに、校舎を汚さない意識を育てる指導も行う。